

# HUMAN RIGHTS

人権・同和教育だより

第 2 号

平成 2 8 年 9 月 9 日 発行

\*「HUMAN RIGHTS」(ヒューマン ライツ)

とは「人権」という意味です。



～今回は 1 学期に実施された人権紙芝居と第 1 回の人権・同和教育ホームルーム活動、  
そして夏休みの終わりに実施した人権委員の研修会の様子をお知らせします。～

## 1 人権紙芝居について

6 月 2 4 日(金)の⑤⑥時間目に、1 年生を対象に道前育成園の方を招いて人権紙芝居を上演しました。以下に主な生徒の感想を紹介したいと思います。



- ・私の知り合いにも障害のある子がいるのですが、私と一緒に遊んだり、話がわからなくても話をわかろうと努力すれば通じ合えることを教えてもらいました。
- ・今でも障害がある人が遠くの学校に通っている事もたくさんあると思います。私は、いろいろな生活の中のちょっとした事から障害のある人が暮らしやすくなると思います。
- ・優秀という言葉は、頭がいい、すぐれているだけの意味ではない。優しさが秀でていう意味でもある。私は、そういう人間になりたいと思う。

## 2 第1回人権・同和教育ホームルーム活動について

6月に1～3年の各ホームルームで、本年度第1回の人権・同和教育ホームルーム活動を実施しました。

1年では、各クラスで、さまざまな人権問題について学習しました。

2年では、人権獲得の歴史の部落差別のおこりについて主に学びました。

3年では、就職差別をなくすための取組について学びました。

以下にいくつか生徒の感想を掲載いたします。

### ① 1年 <生徒の感想>

- ・普通に生活していると、相手を尊重したり、敵意を見せないようにするのは簡単ではないので、意識せずに行えるようにしていきたい。
- ・話すときは笑顔で、一人一人との話し方、付き合い方を覚えていきたい。
- ・1年1組がもっといいクラスになるように、自分にできることをしていきたい。まずは、話したことがない4人と話をしたい。

### ② 2年 <生徒の感想>

- ・今回、差別についての学習をして、皆が差別するのを当たり前だと考えていると、誰一人そのことに疑いを持たなくなっていくのだなと思いました。もしかしたら、今自分たちが当たり前だと思っていることも間違っただことなのかもしれないと感じました。だからまず、当たり前なのに疑問を持つことが大事なのではないかと思いました。皆が差別は間違っていると思いつけていくことが大切だと思います。
- ・どこか他人事だった部落差別について、改めて考え、まだ昔の意識のままの人もいるということがわかりました。私たちはこういった歴史を「知らない」ということが一番いけないと思います。昔のことだからではなく、今でも残っているということが事実なので、伝えていきたいと思いました。医学、芸能など、私たちの生活が支えられていたことも今日初めて知りました。
- ・私は今回、差別について聞いて、昔から受け継がれてきたものの中に差別が含まれていたことに驚きました。伝統文化などのよいものは長く受け継がれるべきですが、差別は私たちが止めるべきだと思いました。「私たちには関係ない」「知らない」という言葉で片付けるのではなく、身近に差別が起こっているかわからなくても、差別の現状について知るために、このようなホームルーム活動があるのだと思います。
- ・「祭りに参加できない」のはとても嫌です。差別に対して無関心でしたが、今回のホームルーム活動を受けて、どんな理由があっても差別するのはだめだと強く思いました。今回学んだことを自分なりにこれから広げていけたらいいなと思います。

### ③ 3年 <生徒の感想>

- ・差別にも様々な差別がありますが、まさか就職先の面接などで差別が潜んでいるとは驚きました。これから私もみんなも面接の練習をする機会が増えます。面接の1つ1つの質問をきちんと聞き、正しい判断をして答えることが必要です。今回身に付けたことを生かしていきたいです。
- ・兵庫県での取組のように、たくさんの方の働きで差別は減らせると思いました。
- ・今までたくさん差別について勉強してきて、もう就職差別はなくなったのだと思っていたので、すごく驚きました。自分が思っていた以上に答えなくていい質問があったので、まだまだ差別について勉強しないといけないと思いました。

### 3 人権委員会現地研修会について

夏休み中の8月23日(火曜日)に氷見交友会館で、本校人権委員会の現地研修会を実施しました。西条市立氷見小学校教頭の佐々木先生を講師に「いじめ問題」について考える内容の学習会で1、2年生の人権委員が参加しました。

講師の先生による講話だけでなく、参加した人権委員の生徒や本校の教員もともに考える時間をもった対話的な形式で、いじめについての考えを深めることができました。特に、いじめを起こさないために何が必要なのか。またいじめが起こった時には、どうしたらよいのかの2つのテーマについて話をいただいたり、考えたりしました。以下に少しですが、参加した生徒の感想を紹介します。



・最近、ニュースでいじめにあって自殺した中学生の事件があったりして、このお話を聞くことができてよかったです。いじめを止める仲間のつながりが大切だということがよくわかりました。

・いじめについて全般的に考え直す機会になりました。やっぱり一人でいじめをなくすことは難しいと思うけれど、周囲と協力してなくしていくことが大切と感じました。

## 山本先生にインタビュー

b y 302人権委員

夏休み前の7月半ば、本年度から本校に赴任された地理歴史・公民科の山本 憲和先生にお話を伺いました。

#### Q1 なぜ、地理歴史・公民科の先生になれたかったのですか？

歴史の本が好きだったこと。高校の時の地歴の先生が型破りな先生でとても楽しく歴史や社会の見方について教えていただいたことが理由です。



## Q2 人権問題の中でもっとも関心があることは何ですか？

貧困の問題です。貧困自体は人権侵害ではないですが、人権侵害が貧困を引き起こし、貧困が人権侵害を引き起こす負の連鎖が世界的に見られる構図です。

現在の日本でも、子どもの6人に1人が貧困状態にあると言われていています。愛媛のような田舎ですら、子ども食堂やフードバンクがあります。私たちの周囲にも迫ってきている問題です。

### ※ 子ども食堂

経済的な事情などにより、家庭で十分な食事がとれなくなった子どもに、無料もしくは安価な食事や居場所を提供する活動。民間発の取組で、「子ども食堂」や「こども食堂」の名前が使われ始めたのは2012年。朝日新聞の調査では、今年5月末で少なくとも全国に319カ所あり、府内には22カ所ある。  
～朝日新聞のキーワード解説より～

## Q3 人権に関する、おすすめの本、映画、歌などは？

「ブタがいた教室」という映画です。小学生が子ブタを育てて、最後、「食べる」「食べない」という議論をするストーリーですが、劇中の小学生の議論には台本がないそうです。その分、議論から子どもの気持ちが感じられ生命の尊さについて考えさせられる映画です。

あと、今年の春に公開された映画、「ズートピア」、人種差別が風刺されています。

### ※ ブタがいた教室

『ブタがいた教室』（ブタがいたきょうしつ）は、黒田恭史の書籍『豚のPちゃん』と32人の小学生 命の授業900日』（ミネルヴァ書房 2003年）を原案とした映画で2008年に公開されました。

出演 妻夫木 聡 原田美枝子など

監督 前田 哲

## Q4 小松高生に対してメッセージはありませんか？

もっと勉強した方がよいです。世界が広がります。

## Q5 今はまっていることは何ですか？

YOU tubeで剣道の試合を観戦することです。自分の子どもが剣道をしているので剣道に興味を持つようになりました。

## Q6 これだけは言いたいということとは？

いつからか「勝ち組」「負け組」という言葉が使われるようになりました。すべてを（経済的な）結果でしか見ない風潮を表しているように思います。結果、自分だけがよければよいという人が増えているように思います。それは、もともと日本人が大切にしてきたものが失われていることでもあります。「情」「思いやり」など、勉強だけでなくそれ以外の大切なことも学んでいきましょう。

※ 野球応援などで大変お忙しい時期に、質問に答えていただき山本先生ありがとうございました。